

■ 平成26年10月27日～10月29日 文教くらし委員会県外調査（福島県・宮城県）

1 10月27日 いわき市ボランティア活動センター（いわき市平字菱川町1-3）

【調査目的】

災害復興ボランティアについて

【調査概要】

いわき市ボランティア活動センターの取組について説明を受け、質疑応答を実施

<説明の概要>

- いわき市の人口は326,093人、世帯数は129,600世帯（平成26年10月1日現在）。いわきが一番北、久之浜地区は、地震が起きて家が崩れ、津波が起きて流された。なんとか免れた家もプロパンガスの爆発で燃えた。その後、原発の30km圏内に入って、2ヶ月間避難した。地震、津波、火災、原発、4つの苦しみがあった地区である
- 建物被害は全部で9万棟近くあるが、そのほとんどが津波ではなく地震である。
- 亡くなった458名のうち455名は津波被災。地震被災は3名で4月11日の地震。
- 平成23年3月16日にいわき市災害救援ボランティアセンターを立ち上げた。全国の社会福祉協議会、九州、関東、のべ300人を超える社会福祉協議会の職員が災害ボランティアセンターのやり方を教えてくれた。
- 平成23年8月8日に復興支援ボランティアセンターに機能と名称を切り替えた。
- ボランティアの活動者は61,626名。ニーズ件数は助けてほしいという声の数、7,539件。マッチング数はその声に斡旋した数で、7,522件。見守り隊、総合受付、ニーズ班、オリエンテーション班、マッチング班等。
- 復興支援活動の状況は、27名の職員が1,739世帯を訪問している。
- 災害から学んだことは、相手と同じ目線の高さ、声のかけ方、受け入れること、自分の特技を生かすこと。

【質疑応答】

- Q：他県ではサテライトという形で社会福祉協議会の関わりが少ないボランティアセンターを幾つかつくったと聞いたが、こちらではどうか？
- A：サテライトはいわき市も勿来、小名浜の2カ所あった。NPO法人とつくったボランティアセンターで両方社会福祉協議会が絡んでいる。他の市町村で社会福祉協議会が動かないという所もある。いわき市は被災3県で関東からの玄関口であったから、全て受け入れた。
- Q：奈良県でも紀伊半島大災害があった。奈良県では安全性を確保できないということでボランティアセンターがなかった。その点についてどう思うか？
- A：ボランティアは自分の活動を尊重する部分でもあるので、安全確保は第一である。できるのだったら、ボランティアセンターを立ち上げてもいいのではないかと。震度5を超えたら立ち上げる、大雨がこの水量を超えたら立ち上げると、ボランティアセンター設置要綱を作ればよいと思うし、常設でもかまわないと思う。



2 10月28日 東北歴史博物館（多賀城市高崎1-22-1）

【調査目的】

宮城・東北の歴史・文化調査について

【調査概要】

東北歴史博物館における取組内容について説明を受け、施設見学・質疑応答を実施

<説明の概要>

- 設置目的は、昭和49年開設の東北歴史資料館の機能を継承発展させ、「考古資料、民族資料、美術工芸及び建造物に関する資料その他歴史に関する資料を収集し、保管し、及び公開し、あわせてこれらの資料に関する調査研究を行い、もって県民の文化の向上に資する。」開館から約15年が経過。
- 平成23年度は東日本大震災で入館者数を大幅に減少させたが、平成24年度、平成25年度は震災前とほぼ同程度まで回復。
- 文化財レスキュー事業、宮城県被災文化財等保全連絡会議、被災ミュージアム再興事業の3事業。博物館1階ロビーに写真、パネル展示を行っている。
- 参加し体感する博物館、生涯学習ならびに調査研究に機会と場を提供する博物館を目標とし、地域の核となる博物館として、展示、それに関する催事を行っている。講座関係、大人向け・子ども向け体験教室、多賀城史跡巡りの大別すると3事業ある。

【質疑応答】

Q：東北の歴史でこれだけは覚えていてほしいというものは？

A：宮城県は縄文時代の貝塚が密集している。多賀城と貝塚、藁を使った民族文化という展示がある。漁業が盛んで海の道具が残っている。縄文文化が非常に花開いたというところ。

Q：史跡の保存状態が非常に良かったのもあるが、特に縄文時代からの史跡を保存した背景に開発から逃れてきたという観点があると思うが、早い時期から保存するための取組があったということか？

A：特に何もしていないか、遺跡の保存状況に良好な土壌だった。火山灰がたまっていて、それを覆う土があった。多賀城というところは昔から礎石が分かっている。地元の方の寄贈もあった。

Q：多賀城跡に住んでいる人がいるのか？

A：実際にこの多賀城跡に住んでいる人がたくさんいる。100%公有地化すると、買収と管理で莫大なお金がかかる。住んでいる人が移転するのも大変なこと。住んでいただきながら、管理をしていくことが必要。多賀城市は歴史的まちづくり法に基づく国の認定を受けた。国府の港として昔から栄えた塩釜という所に抜ける街道沿い町並み、農村風景が認められた。海沿いには伊達藩が作った民家を歴史的な要素として、まちづくりをしていこうと計画を立てた。うまく景観を壊さないようにまちづくりをしていく計画をしている。



3



10月28日 瑞巖寺（宮城郡松島町松島字町内91）

【調査目的】

平成の大修理の概要について

【調査概要】

瑞巖寺における取組内容について説明を受け、施設見学・質疑応答を実施

<説明の概要>

- 仙台藩主の伊達政宗が創建してから400年が経過したので、平成21年より平成の大修理ということで改修を行っている。
- 瑞巖寺は400年前からであるが、前身は比叡山延暦寺の系統を受け継ぎ延福寺が838年に創建したことから始まるとされる。
- 鎌倉時代になると、幕府の執権北条時頼が天台宗から臨済宗に改宗をした。
- 松島湾は海が入り組んでおり、当時は海が現在よりも近い状態にあり、この瑞巖寺の地盤も固い所、柔らかい所が入り組んでおり、瑞巖寺の本堂に影響を及ぼした。不陸という地盤沈下がある所、そうでない所があり歪みが生じた。歪みを修正するため100年に一度の大修理が行われた。松島町が発掘調査を行い、延福寺の建物跡もみついている。
- 瓦は鎌倉時代から奈良県の影響を受けている。資料に蓮華の文様の入った瓦があり、鎌倉時代に奈良県の法隆寺の修理をした時の瓦と同じような文様であった。奈良県から職人が来て、松島の職人に教えて作ったのではないかとされている。
- 今回ご覧いただく修理現場は全部覆いがかかった状態であり、足場がある。今年いっぱい足場は解体の予定であり、上って奈良県で作った瓦が身近に見られるのも最後であるので、ぜひじっくりご覧いただきたい。

【質疑応答】

Q：鬼瓦の重さはどれくらいか？

A：100kg強である。今日ちょうど据え付けたところである。

Q：工事中しか入れないところがあると聞いたが？

A：今、入ってきたところは御成門と言って天皇など皇室しか通れない門である。修理が終われば一般の人は入れない。

Q：先の東日本大震災などによる被害状況はどうか？

A：多くの地震が記録されているが被害は少ない。建物には400年前から筋違が入れられていた。400年前から筋違が入っていた文化財は瑞巖寺の他、聞いていない。

Q：本堂の屋根の勾配は急な方か？

A：普通のタイプである。10行って7下がる勾配で30度である。勾配が緩いと雨漏りがしてしまう。奈良の古い建物は勾配が緩いので、瑞巖寺の屋根が急に見えるのではないかと。



4 10月29日 仙台子ども体験プラザ（仙台市青葉区中央1-3-1）

【調査目的】

仕事や消費の模擬体験ができる体感型教育施設について

【調査概要】

仙台子ども体験プラザにおける取組内容について説明を受け、施設見学・質疑応答を実施

<説明の概要>

- 東日本大震災の被災地復興支援プロジェクト、カタルフレンド基金による助成と協賛企業の協力で平成26年8月19日に開館した。
- スチューデントシティは小学生用で5、6年生が対象。各企業から派遣されているボランティア、各学校から来ている保護者のボランティアのサポートを受けブースに再現されている店舗や事業所で、社会と自分の関わりや経済の仕組みを学ぶ。
- 仕事を学ぶのではなく、仕事で学ぶのが特徴。児童は自分が属するブースで社員として過ごす。仕事をするグループ、ショッピングをするグループ、ローテーションをし両方の体験をする。お金のことや、仕事をする上での責任、社会で協力し合っていることを体験できる。
- ファイナンスパークは中学生用。家族や収入などの条件が与えられた中で、様々な商品やサービスの購入・契約などを体験し、情報を適切に活用する力や生活設計能力などを学ぶ。
- 生きていくために必要なお金とは、がサブテーマ。中学生の生徒が20歳から40歳の大人になって、役割を担って必要となる生活費を計算している。12社の協賛企業のブースを回り、生活費目に合わせて支払いを行っている。税金や公共料金の支払いも行う。
- お金の大切さや、使うことの難しさ、計画の難しさを感じた、親に感謝したという感想を持つ生徒もいた。

【質疑応答】

Q：授業時間を確保する苦勞もあると思うが、教科学習の時間を使って事前学習をこなしているのか？

A：小学校はほとんどが総合的な学習の時間でしており、中学校では総合と社会科、他に家庭科を組み合わせてしている学校がある。

Q：教育の一環としてしているということだが、個人的にもう一度来ることはできるのか？

A：学校単位で来ていただき、授業として実施している。仙台市内の小中学生全員は特別支援も含め、必ず、スチューデントシティ、ファイナンスパークを1回ずつ体験してもらっている。

Q：体験する前と後で子どもたちの違いをどのように感じているか？

A：ファイナンスパークを体験した中学校で、体験した後では社会科の授業の反応が変わった、大人になった、現実的に将来自分が大人になった時をイメージしながら、政治・経済の授業を受けるようになった、非常に変わったという話を聞いた。

